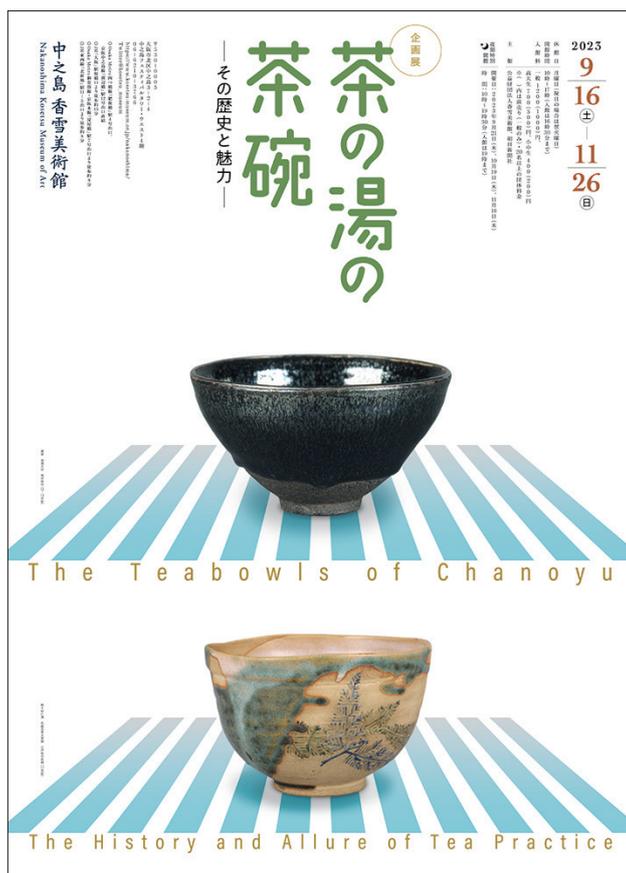


企画展

# 茶の湯の茶碗 —その歴史と魅力—

The Teabowls of Chanoyu: The History and Allure of Tea Practice



## 香雪美術館所蔵の主要な茶碗を一堂に展示

香雪美術館は、朝日新聞社を創業した実業家である村山龍平（1850-1933）が収集した茶道具をはじめ、仏教美術や刀剣など多種多様な美術品を収蔵しています。村山は、「香雪」や「玄庵」と号し、茶の湯に傾倒した数寄者でした。

茶碗は、茶席において客が茶を直接的に飲む道具であることから、特に重要な茶道具として貴ばれてきました。またそれゆえに、時代ごとの茶の湯における美意識を如実に反映しています。本展では、当館が所蔵する村山が愛蔵した茶碗約70点を通し、日本における茶の湯の展開をたどるとともに、個々の茶碗の魅力も紹介します。

## I 章 鎌倉時代～桃山時代前期

- 抹茶の渡来から千利休まで -

粉末状にした茶葉に湯を注いで飲む抹茶（点茶法）は、北宋時代（960-1127）に中国で始まった喫茶法です。鎌倉時代初期（12世紀末）に、中国へ留学した僧侶や日本へ渡来した中国人商人などによって、抹茶が日本に入るとともに、天目（①・②）や青磁など中国製の唐物茶碗がもたらされました。

室町時代後期（16世紀）になると、大坂・堺の富裕な町衆たちを中心に、質素な茶器を用いる「侘び茶」が流行し、朝鮮半島製の高麗茶碗（③）も用いられるようになりました。桃山時代前期（16世紀後半）には、堺の豪商であった千利休（1522-91）が「侘び茶」を大成させ、装飾性を徹底的に排除しシンプルな形に徹した楽茶碗（④）を、京都の陶工である長次郎に作らせました。



① 建窯 油滴天目 南宋時代（12～13世紀）



② 吉州窯 梅花天目 南宋時代（12～13世紀）



③ 朝鮮 井戸茶碗 燕庵井戸 朝鮮時代（16世紀）



④ 重要美術品 長次郎 黒楽茶碗 銘 古狐 桃山時代（16世紀）

## II 章 桃山時代後期

## - 古田織部好みの流行 -

天正 19 年 (1591) に、豊臣秀吉 (1537-98) の勘気を被り利休が自刃した後は、弟子であった大名ふるたおりべの古田織部 (1543-1615) が、茶の湯の世界を主導しました。織部は、利休の美意識とは真逆の、歪みや割れを伴う力強い道具 (⑤) に、新たな美を見出しました。

慶長年間 (1596-1615) には、岐阜県東部の土岐市や可児市周辺へらの美濃窯で、織部好みの力強い茶碗が制作されました。口がうねり、側面にへらで削った痕跡をそのまま残す瀬戸黒 (⑥) は、焼成中に窯から取り出して急冷させることで、器を覆う釉薬を漆黒色にしています。志野茶碗 (⑦・⑧) は、鉄の顔料と筆を使って図様が描けるようになり、表現の幅が格段に広がった点が、日本陶磁史上で革新的でした。

重要文化財に指定されている湯木美術館 (大阪) 所蔵の「広沢」(⑦) を特別に出品し、当館所蔵の「朝日影」(⑧) と共に、志野茶碗の魅力をお楽しみ頂けます。



⑤ 朝鮮 割高台茶碗 長束割高台 朝鮮時代 (16 世紀)



⑥ 美濃 瀬戸黒茶碗 銘 宗潮黒 桃山時代 (16 ~ 17 世紀)



⑦ 重要文化財 美濃 志野茶碗 銘 広沢 桃山時代 (16 ~ 17 世紀)  
湯木美術館



⑧ 美濃 志野茶碗 銘 朝日影 桃山時代 (16 ~ 17 世紀)

### Ⅲ章 江戸時代

#### －小堀遠州と和物茶碗の展開－

慶長20年(1615)、大坂の陣に際して謀反を疑われた織部が自害した後、元和から寛永年間(1620-40年代)にかけては、その弟子である大名のこほりえんしゅう小堀遠州が茶の湯の世界を牽引しました。遠州は織部と異なり、端正で洗練された造形の茶道具を好み、茶会では染付茶碗(⑨)を頻繁に使用しました。

桃山時代から江戸時代にかけては、茶の湯の需要層拡大に 대응するため、日本各地に窯が開かれ、個々に特徴のある和物茶碗が作られるようになりました。高取焼(福岡県)のしらはたやま白旗山窯では、遠州好みの端正な茶碗(⑩)が作られました。長次郎を祖とし現在まで続く樂家では、歴代の個性が表れた茶碗(⑪)が作られました。また、茶の湯の宗匠自身が茶碗(⑫)を手掛けることもありました。



⑨ 景德鎮窯 祥瑞山水花鳥文洲浜形茶碗 明時代(17世紀)



⑩ 高取 鉄釉茶碗 江戸時代前期(17世紀)



⑪ 樂一入 黒楽茶碗 銘 落葉 江戸時代前期(17世紀)



⑫ 藪内竹心(不住齋) 赤楽茶碗 銘 唯我 江戸時代中期(18世紀)

## IV章 『大正名器鑑』収録の茶碗

— 高橋箒庵による選定 —

実業家を引退した後に数寄者として活躍した高橋義雄（号箒庵、1861-1937）が大正時代に編纂・刊行した、豪華茶道具図録『大正名器鑑』には、村山が所蔵していた茶碗7点が収録されています。箒庵の日記『萬象録』の大正9年（1920）9月26日の項には、箒庵が同書編纂のため、現在香雪美術館が所在する神戸御影の村山邸を訪れ、閲覧・撮影した茶碗が列記されています。

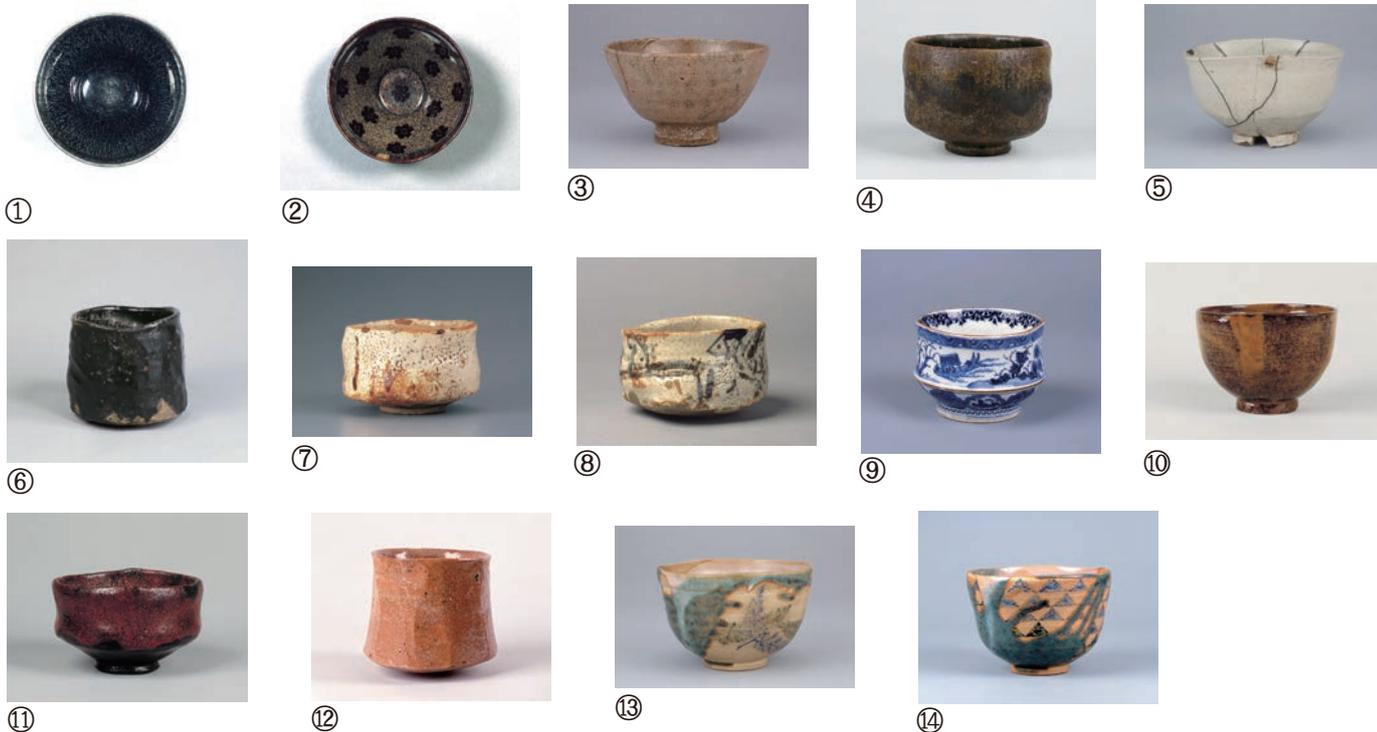
同書に収録される野々村仁清（生没年不詳）作「色絵忍草文茶碗」(⑬)は、釉薬の抽象的な流れと、その間に描かれた具象的な文様との斬新なコントラストが、見るものを惹き付けます。重要文化財に指定されている北村美術館（京都）所蔵の「色絵鱗波文茶碗」(⑭)を特別に出品し、2碗によるコラボレーションがご覧いただけます。



⑬ 野々村仁清 色絵忍草文茶碗 江戸時代前期（17世紀）

⑭ 重要文化財 野々村仁清 色絵鱗波文茶碗 江戸時代前期（17世紀）  
北村美術館 【展示期間：9月16日～10月22日】

## 作品画像貸出一覧



- ① けんよう ゆてきてんもく 建窯 油滴天目 南宋時代 (12～13世紀)
- ② きつしゅうよう ばいかてんもく 吉州窯 梅花天目 南宋時代 (12～13世紀)
- ③ ちょうせん いどちawan えんなんいど 朝鮮 井戸茶碗 燕庵井戸 朝鮮時代 (16世紀)
- ④ ちょうじろう くららくちawan めい こぎつね 重要美術品 長次郎 黒楽茶碗 銘 古狐 桃山時代 (16世紀)
- ⑤ ちょうせん わりこうだいちawan なつかわりこうだい 朝鮮 割高台茶碗 長束割高台 朝鮮時代 (16世紀)
- ⑥ みのせ とぐるちawan めい そうちようぐる 美濃 瀬戸黒茶碗 銘 宗潮黒 桃山時代 (16～17世紀)
- ⑦ みのしのちawan めい ひろさわ 重要文化財 美濃 志野茶碗 銘 広沢 桃山時代 (16～17世紀) 湯木美術館 **web掲載不可**
- ⑧ みのしのちawan めい あさひかけ 美濃 志野茶碗 銘 朝日影 桃山時代 (16～17世紀)
- ⑨ けいとくちんよう しんずいさんすい かちようもん すはまがたちawan 景德鎮窯 祥瑞山水花鳥文洲浜形茶碗 明時代 (17世紀)
- ⑩ たかとり てつゆうちawan 高取 鉄釉茶碗 江戸時代前期 (17世紀)
- ⑪ らくいちにゅう くららくちawan めい おちば 樂一入 黒楽茶碗 銘 落葉 江戸時代前期 (17世紀)
- ⑫ やぶのうちくしん ふじゅうさい あからくちawan めい ゆいが 藪内竹心 (不住斎) 赤楽茶碗 銘 唯我 江戸時代中期 (18世紀)
- ⑬ ののむらにんせい いろえしのぶぐさもんちawan 野々村仁清 色絵忍草文茶碗 江戸時代前期 (17世紀)
- ⑭ ののむらにんせい いろえうるこなみもんちawan 重要文化財 野々村仁清 色絵鱗波文茶碗 江戸時代前期 (17世紀) 北村美術館
- 【展示期間：9月16日～10月22日】

## 開催概要

会期	2023年9月16日(土)～11月26日(日)
休館日	月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
開館時間	10時～17時(入館は16時30分まで)
夜間特別開館	9月21日(木)、10月19日(木)、11月16日(木) 19時30分まで開館(入館は19時まで)
料金	一般1,200円(1,000)円、高大生700円(500)円、小中生400円(200)円 ◎( )内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金 ◎前売券は9月15日まで中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主催	公益財団法人 香雪美術館、朝日新聞社
会場	中之島香雪美術館 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階 TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 <a href="https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/">https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/</a> ✉@kosetsu_museum  @n.kosetsu

## 記念講演会

名碗が語り掛けてくるもの  
— 天目から“茶碗”へ —

講師：竹内順一氏(東京藝術大学名誉教授)  
日時：10月7日(土)14:00～15:30  
会場：中之島会館(当館隣)  
参加料：500円(展覧会観覧には別途入館料が必要)  
定員：280名(予定・先着順)

応募方法(いずれかの方法でご応募ください)

◎ウェブサイト

当館HP上の専用フォームをご確認ください。

◎往復ハガキ

1通で2名様まで応募可能。参加人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所・氏名をご記入ください。返信ハガキで参加証を郵送します。

【宛先】〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4  
中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階  
中之島香雪美術館  
「茶の湯の茶碗」展 講演会係

受付開始 2023年7月8日(土)

## ギャラリートーク

学芸員による展示解説

9月16日(土)、10月21日(土)、11月18日(土)  
展示室内にて、いずれも15:30～(1時間程度)  
参加無料(入館料のみ)

## 特別相互割引

「茶碗」をキーワードにして、各館の特徴を生かした展示を行います。この機会にぜひ、茶碗に親しんでください。

京都	北村美術館 野村美術館	京都国立博物館 樂美術館	泉屋博古館
大阪	逸翁美術館	中之島香雪美術館	湯木美術館
兵庫	滴翠美術館		

詳細については、各館ホームページなどをご確認、または各館にお問い合わせください。

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他( )	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
---------	---------------------

注 意 事 項
---------

- ・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
- ・原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。
- ・掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。
- ・画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。
- ・サイズは、(web掲載用)長辺1000px 100dpi (紙媒体用)長辺1000px 300dpi まで。
- ・ウェブ掲載の場合、掲載期間を最長6ヶ月とし、その後は削除をお願いします。それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」 広報担当

TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階